

## ◆新技術定着試験事業

### モズク種採苗及び寒天保存実証試験(本島中南部地区)

水産業改良普及センター 與那嶺盛次

#### 1. 目的

県水産業改良普及センターからのモズク類培養種の配布は、平成23年度で終了することから、漁業者自らが母藻から採苗し、寒天保存できる技術を修得して、今後とも培養種を使用できるよう実証試験を実施した。

#### 2. 材料及び方法

読谷村漁協モズク養殖部会の前島明美氏と職員の前田晃氏とともに実証試験を実施した。モズク種の採苗については、6月の講習会で実施したため、主にオキナワモズク種の寒天保存と植え継ぎ、寒天保存している種を液体培養に立ち上げ拡大培養を行って、種付けを実施し沖だしを行った。また、寒天培地から液体培養した種を寒天培地に戻す作業も実施した。

#### 3. 結果及び考察

平成23年8月16日読谷村漁協において、読谷村漁協モズク養殖部会の前島明美氏、職員の前田晃氏とともにモズク種保存に使用する寒天培地を作製した。その後、寒天に保存しているオキナワモズク種の寒天培地での植え継ぎを行って、培養室にて保存した。

10月24日、8月16日に植え継ぎを行ったオキナワモズク種の寒天保存状態を確認した。培養室は、25℃に保たれていてモズク種は順調に増殖していた。また、9月に配布したモズク培養種も順調に拡大培養されていた。

11月8日、寒天保存を行っているオキナワモズク種が、順調に増殖し約3ヵ月経過したため寒天培地から寒天培地への植継ぎを実施し、

500ミリリットルのペットボトルを使用して一部液体培養に移した。

12月6日、寒天培地から500ミリリットルのペットボトルに移したオキナワモズク種が順調に増殖していたので2リットルのペットボトルに移すとともに、寒天培地にも戻した。

12月28日、冷房機の停止により培養室内の温度が上昇して、培養種や寒天保存種がだめになったことから、培養種の寒天保存や液体培養のやり直しを行った。

平成24年1月18日、寒天保存しているオキナワモズク種の植え継ぎを行った。その後、寒天保存種から500ミリリットルのペットボトルを使用して液体培養に移し、梅酒ビン(6リットル)に拡大培養した培養種の状況を確認した。培養種は、順調に増殖していた。

2月27日、1月18日植え継ぎを行った寒天保存種の状況を確認した。培養種は、順調に増殖していた。寒天保存種から立ち上げた拡大培養種(梅酒ビン6リットル)の種付け状況を確認した。2月10日に2水槽(養殖網150枚)で種付けを実施しており、水槽内に釣り下げていた確認板を顕微鏡で観察したところ適度に盤状体が付いていたので、2月28日に沖だしを行った。

#### 4. 今後の課題

- (1) 今後とも現在、寒天保存を行っているオキナワモズク種の植え継ぎを行う。
- (2) 5月には、養殖しているオキナワモズクが成熟するため、母藻として使用して採苗を行う。



寒天培地の作製



寒天保存種の植え継ぎ



オキナワモズク種の培養室



オキナワモズク種の寒天保存



寒天保存種からペットボトルへの液体培養



ペットボトルから梅酒ビンへの拡大培養